

〈論文〉

*\*Who is it fun kissing?* はなぜ許容されないか。

葛西清蔵

0. 筆者は葛西 (2006) において, *adjunct* (付加部) について, (ここからの抜き出しは後になって「障壁」によって説明されることになるが,) この種の問題は, 統語の問題であるよりは, 話し手の発話意図, 情報の問題であることを示した。本稿は表題の英文が許容されない理由を検討し, この文が許容されないのは, 補足的な, 古い情報部分からは, 抜き出しというような新たな態度表明はできないためであることを示そうとする。議論はつぎのような章わけに従う。

1. *It is fun kissing Gladys.* の構文の性質: その (1)
2. *It is fun kissing Gladys.* の構文の性質: その (2)
3. *It is fun kissing Gladys.* の構文の性質: その (3)
4. *It is fun kissing Gladys.* の構文の性質: その (4)
5. まとめ: *\*Who is it fun kissing?* が許容されない理由

1. *It is fun kissing Gladys.* の構文の性質: その (1)

この文の性質を検討するために, まず, つぎの例を見よう。(この議論は葛西 (1993) を参照。)

1. a *\*It's illegal shaving birds.*  
b *\*It's important saving money.*
2. a *It's ridiculous working so late at night.*

b It's *fun* shaving birds.

c It's *nice* saving money.

(1a, b) の非文と (2a, b, c) の文は同じ構文であるにもかかわらず、許容度の判断に違いがある。まずはっきりしているのは、述語形容詞の性質のちがいである。許容される (2a, b, c) では、ridiculous, fun, nice であり、許容されない (1a, b) の illegal, important にくらべて、(2a, b, c) の述語形容詞は、「主観的な判断」を表わすものである。逆に、許容されない (1a, b) の illegal, important は、「客観的な判断」を示すものであるといえる。このことは、この構文のどんな性質からくるのであろうか。以下ではこれにかかわることをさぐっていきたい。

## 2. It is fun kissing Gladys. の構文の性質：その (2)

つぎの文を見よう。

3. a It is fun to kiss Gladys.

b It is fun kissing Gladys.

4. a Who is it fun to kiss?

b \*Who is it fun kissing?

5. a It is hard to live in the city.

b It is hard living in the city.

6. a The city is hard to live in.

b \*The city is hard living in.

(3a) に対して (4a) が許容されるのに、なぜ (3b) に対する (4b) は許容されないの  
であろうか。

まず、(4), (5), (6) の文から導きだされるものは何か。それには、つぎの文が参考になる。

7. a It's fun being a HOSTESS.

b It's FUN being a HOSTESS.

(7a, b) のようにストレス (大文字の部分) をおくと, 「自然なのは (7b) であり, ここで being 以下は「主な情報の焦点」(main information focus) を担わない」(Quirk et al. 1972: 964) という。また (7b) では, FUN がストレスをもち, being 以下は非焦点化 (defocus) されているという。このことから

この構文では, 文尾におかれた動名詞を含む部分は, 主張とはならず, むしろ旧情報になう部分として, 付け足されたものである,

といえるであろう (Rodman 1974 も参照)。発音するときにも being の前に, comma-like pause (Emonds 1972: 42) を入れることになる。中島 (1980: 46) は「最初は, 動名詞句の前にコンマ (休止) があつたと考えられる」とはっきりのべている。(このことは後の (12b) でも確認されることになる。)

このように考えるとつぎのようなことも確認できる。つまり, (3a) のような不定詞句からの抜き出しは (4a) のように可能である。一般に要素の移動が可能なのは主張部分からであり,<sup>(1)</sup> 前提部分からは, 要素の移動ができないから, ここでもやはり (3b) の kissing Gladys が「非焦点化」された動名詞部分は前提部分をなしている」。そしてこの部分から Gladys を who として抜き出した (4b) は許容されない, と考えることができる。

このことが, 1. で見た fun などの性格に関係があるはずである。

(5a) は, いわゆる tough 構造であり, 目的語をくりあげて (6a) にできるが, (6b) にこれができない。(6b) が許容されないのはこのためである。つぎの (8a, b, c) で確認してみよう。

8. a Having nude scenes on the stage is normal nowadays.

b \*It is normal nowadays having nude scenes on the stage.

c To have nude scenes on the stage is normal nowadays.

(8a) のように, 動名詞が主語位置にある文は許容されるが, (8b) のように文尾に外置されると非文となる。これは, もともと, 主張部分である 'normal nowadays' と, そのあと移動されて主張部分となった動名詞部分が衝突するためであろう。主語位置はもとも

と話し手、聞き手で了承された古い情報が来るべき位置であり、動名詞が主語になっている (8a) は安定した構造をつくり、許容されている。(8a) の動名詞主語のほうが「より一層自然」(Hudson 1971 : 178) というのは、動名詞はもともと事実を指向し、不定詞は未来を指向する (cf. Celce-Murcia and Larsen-Freeman 1983 : 4) から動名詞の方が主語位置にふさわしいからであろう。

### 3. It is fun kissing Gladys. の構文の性質 : その (3)

つぎに、(8b) の判断にも関わることになるつぎの例をみることにしよう。

9. a It's useless talking to him.  
b It's hard living in this city.
10. a It's no use *your* complaining to the boss.  
b It's no good *our* going like this.  
c \*It'll be useful *my* talking to him about it.
11. a \*It was a shame *Max's* getting arrested.  
b \*It annoys me *John's* playing golf.

(9), (10), (11) の文から分かることは、「動名詞に主語があってはいけない」ということである。主語なし > 代名詞 (*your, our, my*) > 固有名詞 (*Max's, John's*) の順で許容されなくなる。荒木 (1985 : 59) は「動名詞に主語があらわされていると非文法文になるか、または文法性が低下する」とあるのはこのことである。

例えば、(9a) において焦点は *useless* である。一方、(11a) では焦点は *a shame* のはずであるが、ここでは *Max's* というもう一つの「優位な」(*prominent*) な箇所がある。ひとつの文には、一つの焦点、優位な箇所があればよい、のである (*one chunk per clause*) (Givón 1993 : 176)。(11a) が非文なのは、この文で *shame, Max's* が衝突しているからに他ならない。(これは、統語的なものと思われているさまざまな現象に関わっているがここではこれ以上触れない。)<sup>(2)</sup>

以上の議論から、(8b) が非文とされるのも、結局は、*normal nowadays* と、意味的に

\**Who is it fun kissing?* はなぜ許容されないか。

優位になる *having nude scenes on the stage* の衝突が原因だということになる。

#### 4. *It is fun kissing Gladys.* の構文の性質：その (4)

上で述べてきたことから、つぎの (12a) は非文であることがわかる。焦点である *understandable*, これに優位性において衝突する *John's* が両立しないからである。

12. a \**It was understandable John's owning two cars.*

b *It was understandable, John's owning two cars.*

(12a) は非文であるが、(12b) のように、*John's* の前に *comma* (,) を入れると許容される。こうすると、*comma* 以下は前の部分と切り離されてしまい、お互いに衝突の関係がなくなってしまうからである。

また、(12b) の例はつぎの「外置」(*extraposition*) の文を連想させる。

13. *He was a great novelist, that Charles Dickens.* (Jespersen 1956 : 95)

Hudson (1971 : 178) は、外置と同格 (*apposition*) を区別するという。そしてこの区別は、第一に「内部境界」(*an internal boundary*) があるか、ないかによるのであって、境界があれば「同格」の例であり、許容されるとなる。「同格」の文は (13) と「まさしく同じ構造をもつ」(1971:179) という。(12b) はまさしくこれである。さきにあげた (7b) ((14a) としてくり返す) について、

14. a *It's FUN being a HOSTESS.* (= 7b)

b *It's fun, being a hostess.*

(14b) のように *comma* をつけて書けるといい、これは、つぎの (15) の外置された

15. *He's a friend of mine, that man.*

の「真の外置された主語」(*a genuine extraposed subject*) ほどに、*that man* という「名詞句付加語」(*a noun phrase tag*) (Quirk et al. 1972 : 964) と「つよい類似性」(*much*

affinity) をもっていることを指摘している。安藤 (2005 : 768) は, (13) の that Charles Dickens について「既知性 (givenness)」を反映して上昇調で発音される (Quirk et al. 1985 : 1417) と, この部分が既知であることをはっきり述べている。

以上, 四つの性質について, It is fun kissing Gladys. の構造を検討してきた。Kissing Gladys is fun, It is fun kissing Gladys については, およそ次のようにまとめることができるであろう。

(Kissing Gladys is fun が文語的であるのに対し,) It is fun kissing Gladys は口語的で, そこに使われる述語は熟慮のあとでの判断を表す illegal のような客観的なものではなく, 即座の反応を表わす主観的な判断を示すもの fun, good などである。まず, (そのことは) fun である, とのべ, そのあとで「そのこと」の中味を kissing Gladys とくり返したものである。この文の動名詞部分 kissing Gladys は既知で旧情報である。

##### 5. まとめ : \*Who is it fun kissing Gladys? が許容されない理由

以上の各章で, It is fun kissing Gladys. の構造がもつ性質を見てきた。ここでは, これを踏まえ, \*Who is it fun kissing? の文はなぜ許容されないのか考えることにする。

まず, It is fun kissing Gladys. の kissing Gladys の部分は文頭の it を言いなおしたもので, 前提であり, 旧情報だということである (Leech 1987)。少なくとも話者は, 誰と kiss したか, ということは分かっている, それが fun であると言っている。すでに知っている部分に対して, kiss の相手は誰か, という疑問を発することはありえない。一般に「既知」のことにさらに疑問を発することはない。したがって表題の文は許容されない。

ちなみに, つぎの文 (15a, b) で,

15. a It is fun to kiss Gladys. (= 3a)

b Who is it fun to kiss t? (= 4a)

(15b) が許容されるのは, (15a) の to kiss Gladys は 'end weight' で, 文尾に移動され主張部分となっている。主張部分からの抜き出しは可能であるから (15b) は許容されることになる。<sup>(3)</sup>

## 注

(1) 旧情報の箇所が移動を許さないということについては、中島が、

i. My father promised me a new car.

で、(i)にある「meを引き出す疑問文はつぐれない。I.O. (=間接目的語：筆者)は既知のもので、疑問文の主語にはならないからである。」(1980:26)と述べていることも参考になる。

(2) いわゆる「指定主語条件」,「架橋動詞」,「前置詞残留」などにも関わっていると思われる。

(3) このことは別の説明の仕方もできる。It is fun kissing Gladys.において焦点は、すでに見た様にfunである。この文にwhoと疑問を発すると、当然このwhoも「優位」になり、これがfunと衝突する。一つの文に「優位」に立つ部分が複数あることはありえない。発話の意図が不明になってしまう。たとえば、人がきたかどうかすら分からないのに、「誰がきたか」と聞くことはありえない。あたかも、\*Did who come?が非文なのは、ここでは、Did anyone come?とWho came?が混在し、発話意図が不明だからである。

## 参考文献

安藤貞雄 2005『現代英文法講義』開拓社

荒木一雄(編)1985『英語正誤辞典』研究出版

Celce-Murcia, M. and D. Larsen-Freeman 1983 *The Grammar Book* Newsbury House Pub.

Emonds, J. 1972 'A reformulation of certain syntactic transformations' Peters, S. (ed.) *Goals of Linguistic Theory* Prentice Hall, Ins.

Givón, T. 1993 *English Grammar A Function-Based Introduction II* John Benjamin Pub. Company

Hudson, R.A. 1971 *English Complex Sentences* North-Holland

Jespersen, O. 1956 *Essentials of English Grammar* George Allen and Unwin Ltd.

葛西清蔵 1993「It's fun shaving dogs. の構造について」『北海道大学文学部紀要』43-1:91-104

葛西清蔵 2006「「付加部条件」は何だったのか。」『文化と言語』65:11-29

Leech, G.N. 1987 *Meaning and the English Verb* Hitsuji Shobo

中島文雄 1980『英語の構造』(下)岩波書店

Quirk, R., Greenbaum, S., Leech, G. and J. Svartvik 1972 *A Grammar of Contemporary English* Longman

Quirk, R., Greenbaum, S., Leech, G. and J. Svartvik 1985 *A Comprehensive Grammar of the English Language* Longman

Rodman, R. 1974 'On the left dislocation' *Papers in Linguistics* 7: 437-466